

平成15年6月12日  
中国電力株式会社  
広島ガス株式会社

平成15年夏季の気温変動リスクの交換について

中国電力株式会社(取締役社長:白倉 茂生)と広島ガス株式会社(取締役社長:深山 英樹)は、夏季の気温変動が収支に与える影響を緩和するリスクヘッジ策の一環として、平成15年夏季の気温変動リスクを交換することに本日、合意いたしました。

この背景には、中国電力と広島ガスとの間に夏季の気温と利益の相関が逆の関係にあるという構造があります。  
つまり、中国電力の場合は、猛暑時には冷房需要が増えることから利益が増加し、逆に冷夏時には利益が減少します。これに対して、広島ガスの場合は、猛暑時には家庭用の給湯需要が減ることから利益が減少し、逆に冷夏時には利益が増加するという構造になっています。

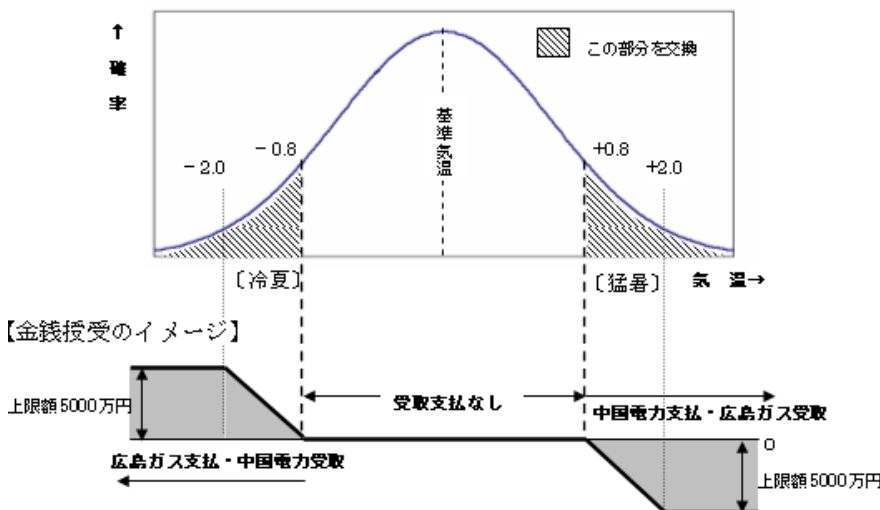
このたびの気温変動リスクの交換は、猛暑時には中国電力が増収の一部を広島ガスに支払う一方、冷夏時には広島ガスが増収の一部を中国電力に支払うことで、互いに夏季の気温変動が収支に与える影響を緩和するものです。

1. リスク交換の内容

- (1)対象期間:平成15年7月1日から9月30日(92日間)
- (2)取引指標:広島地方気象台を観測地点とする対象期間の平均気温
- (3)基準気温:両社の合意した気温  
(過去の同時期の気温をもとに、両社の取引が対等になるように設定)
- (4)取引内容:
  - ・対象期間の実績平均気温が基準気温+0.8℃を上回る猛暑時には、中国電力が広島ガスに対して、上回った気温に応じて事前に取り決めた金額を支払う。
  - ・対象期間の実績平均気温が基準気温-0.8℃を下回る冷夏時には、広島ガスが中国電力に対して、下回った気温に応じて事前に取り決めた金額を支払う。
  - ・ただし、金銭授受額の限度は、基準気温±2.0℃離れた場合の約5,000万円とする。

2. リスク交換のイメージ

【気温の分布イメージ】



### 3. 今後の取組み

中国電力と広島ガスは、気温リスクは積極的にコントロールすべきリスクと認識しており、平成13年から気温リスクに関する研究を両社で行ってまいりました。今回の取組みは、その研究成果を具体化したものであり、これをスタートとして今後より実効性のあるリスクヘッジ策についても検討していきたいと考えています。

以上